

高田雲雀



一、この田馬場東西へ墜る所余横三ノ間余あり頼朝皇
 田の執柄の時先手此所集ると云ふ馬場ニ夕筋あり
 此所馬場の永録中、武田信玄瀨東向の時馬を責
 られ、其後或人馬を攻て此所を落馬し、其後
 此馬場より射のこみ、馬の南の馬場より、各不
 さまり、かの側、松の葉木
 吉宗公御中知照して植られ、たゞ
 らる雄難、こゝに馬場ニ筋あり、信玄の孫
 田の時、三喜あり、とあるの疑り



大猷公實事三箇事一 序者命ありて此馬場築
きら水一法道或る田成は烟民ありともかまか
たる神ありあり一 序威勢を以て忽ち拾好する
馬場のありて法道なり一 田舎の神を専らん令
至しる父の語りあり一 とも一 神に神の事 妙物
語に思ひ出し一 法水をその以てあり一 かの才馬場
り一 ちとる事あり一 法る

一 三島山 言田馬場の後を大平氏の居る雄心は
法れ百の脇少道傳ひしはく森あり 古き松四本あり
所をつと三島の神を勧請を令に社に耐壇あり一 とも
あり一 禪英山言白木寺の持まり法道あり 上水の川上

一 園みえなる地白京一

一 龍田 三島山の下の邊をさふあり 水堰掛ても
水を洩まぬ名とをと云ふ

一 新家村 言田馬場より東南あり上村といふ
所ありあり

一 荒瀬山 言田馬場より南の方戸山の尖れ前と法
計とのるをさふは名に名にありともさふは
名にひくさるると野一

一 山吹里 言田馬場より 雜司谷へ出る道の古家をさふ
ともすく上村ありといふともさふ一 法あり一 法
言田馬場は法道を乞一 山吹里ありを乞一 法あり

所の名と。武正院金川子持と。とある金川
とのふい字の寺の藪を流る少清をよみたる鳴
るまの田うや。一廣れ出る東の国を携し。古川へ入る

曾々今昔を流る

一 傍橋 上れよ加木を携をり

一 姿見橋 傍橋より少く先の少橋をいふ程の姿

残えたる少といふ流ある所子名とあると

分明塩尻云尾陽公は藤のの少少精といふあり。原の姿見の傍
とつひの面自さき橋なり。少如し流る。在門子より後流る。少
此川下り上流の牛込を流る少石川へ流る。少少

一 發音高塚 姿見と傍橋との向をいふ此邊總て砂利
場と云ふ

一 夾山 禪宗駒込吉祥寺あり山吹の里

近き砂利場の中あり

一 如意山真朝院 日蓮宗身延寺より七面堂境内に

在光の極山吹の里夾山の山七百三の松あり名不し

一大鏡山南藏院之東師堂 境内に少僧あり此を

根川と云ふつ前よある橋を根川橋と云ふ好文

本と云極大嶽公極ふ今つ枯了根柢あり

杉結ふ措ひかち此赤い跡をあるは昔大君

古柳智ゆる長所より根柢を以てしせふ

所を皆つとに甲州付の塔ともある

西軍之大鏡山の里にありありてなる

一 氷川神社 是より昔平塚との子その因縁を
知らば昔平塚の樹松田所の神木をさす子年
花院の持より

一 砂利場所 根川原通りとま少道あり上吉の海
道のま

合又る

一 棒杭 上水より

一 廻り目 上水より

一 牛う開 厩う開

一 金葉院 砂利場所の縁より 藤より
多姫(出る道あり)まへ七曲り厩へ入る

一 頂屋姫の社 祭神り秋屋姫俗子さくら
姫の字とつ子の坂をせつけへ坂とま浅間坂の

誤さるる一 極の古木あり此道より南松と云
子あるま一 子知合は枯てあり

曹早云水戸黄門公の歌あり金葉院より

一 藤森縮荷 浅間下流合一 藤山のまあり

一 宿坂 金葉院の前の坂をさす 昔昔は所あり

宿坂の深ありし由生おの鎌倉海守の由八兵
衛と云百好の法所の孫守の子孫あり 後の家子そ
時の刀を升古物多し 帳面もあるま

一 鶴山 高田四ヶ所本

一 雜司谷村 四谷町

一 鬼子母神 本地法妙寺 別當大行院

寺家

倭漢三才圖會云法妙寺在曹司谷關基日源上人有
鬼子母神社有古松樹傳云楠正成關東下向時寓于
此所也

三 獄 數の著る名物あり 徑寸程籠盛り入前三

一 板橋道あり 柳の下茶屋 宮町茶屋

一 稻荷坂 くらひ坂と云ふ久具忠四郎殿下屋あり

南西移り 七曲り 西坂椎名町

曹司永三首阿公常山文集詩

一 落合社あり 下落合 田島橋 比立尼橋

法道をへて下落合あり

一 落合り橋 上宿あり 少二町あり

一 諏訪社 別當玄國町 西川の像安置古道

地藏 法道は往古の海道あり 菴帳云戸山尾お
鎌倉海道と云ふ所あり 都て法道(法道)なる

曹云秋寺有龍門先生碑文選者觀海拾崎先生

佐久間思朋書

一 お伊勢原 大神宮社あり 玄國寺の坊あり 諏訪の
社あり 妙の坊あり 本林見ゆる是あり

一 河海 お伊勢原の女 先世原ありよき所へ法道

水湧出たる板あり 戸塚といふ祠あり 狐を周

とる石の扉あり 亦ふは遠の名といふ

倭漢三才圖會云清水稻荷社在高田元録十五年

四月日有夢想以来自榎木穴出水以洗眼有效

一穴八幡 別當光松山放生會あり 縁起あり 略に未

社数多あり 光りお今け拈てあり 松山院光山院と

いふ寮二所あり 山門鐘樓 氷室社 厄瘡神の

社といふ 世継所 相生竹神 崇り左右あり 放生寺

の元の泉水中 三輪甚古 瀨門作の亀あり

本は皆おけて形なきに 普賢堂 九品佛 その外

未社多し

倭漢三才圖會曰穴八幡宮在高田別當放生寺寛

永十三年草創元録年中桂昌院殿再興

塩尻云我々東都市谷屋敷内穴八幡宮あり 此法体

八幡形あり 地蔵の似たり 東都穴八幡法体開帳

の時奉拜し是又佛并立像あり 錫杖を拈たり

一松竹山龍泉院 聖天字社 辨天社 道祖神社あり

一八幡坂 龍泉院の前の坂を云ふ

一矢来道 尾陽の市を教場をいふ 又あり 飯村へ

出る 一駒ヶ橋 石橋あり 八幡の前あり

一大音山正覚寺 青蓮寺地蔵あり

一萬年山法輪寺 勝方派法華をとり富土本門寺者

一上村 穴八幡裏門前水稻荷の前すへて法邊を移す

一天神の社 別當真定院元來大摺龍慶所持と云
以てその神ありしう近は此所を移す

慶筆一歌仙あり菅公真筆の經文あり此寺の脇
より法訪へりて是あり此邊都て寺村と云ふ

一金谷山室禪寺 下戸塚へる道ち中南昌寺
禪宗下総 南昌寺

一馬場下町 穴八幡前をいふ高田馬場の下なる名

一中島 馬場下の末代子近は寺にて中島甚難由
と云ふ浪人住々名加知小名と云申州浪人の由申あ
浪人の末葉あり

一早稲田町 同町 早稲田町の表の在家をいふ

一神明 赤井寺賞寺村 早稲田町のゆふの山
道あり此間ありは名より早稲田田圃へ出る大

たんちとつふ鶴の跡 此古比所へ鶴のありし
時のたのありし所なり是より左へ列は路所より

あり戸塚南口の高田町へ出る道あり

一目高橋 早稲田たんちのゆふの道より南口へ出る

一永劫山建勝寺 智恩末 已せ

一 光明山大養良寺

乙せご、落馬地藏あり

一 長青山正法寺

勝芳汎妙満寺未

一 組屋敷

大友松といふ松ありし、今の枯てなし

宝曆中焼亡此組ゆゑ駒込屋士の鑑を預りし、何の國派々知まじに宗參寺裏の前の池あり

一 宗光寺

一 太子山龍善寺

南春寺

一 十劫山宗源寺

智恩未

乙せご、榎所

一 松廣山 宗法寺

真言

宝泉寺未

一 直轄橋

早稲田榎所の標なり、依ふと、めきといふ

一 馬場下横町 中程ふせごる場下の留ふ南、以て所

一 亀鶴山誓願寺

関山水食大は古い少しの福宝未

りしところの庵の築あり東西南北に松栗極て方角を定めし、此方松庵といふ、今い其名絶て知る人あり、此上人木佛金像を得て常あり、以て細くたす、其境内に稲荷を勧誘し、霜月日、い吹草祭と号し、今い其古に跡あり、家耕をたけ祭るあり、古来の系極に戸あり、跡ある者、水極あり、境内に山あり、在原郡と豊後郡の境あり、今本堂ある方を在原といふ、さるより、鐘の銘ふ

一 荏原とあり唐申堂は古の唐ありともあり

一 西才寺 増寺未詳寺か自樂と云ふもの、塔あり

以自樂長命ありて年壽百十四歳ありて死を身

終るまで生け眼耳もよく壯年の人の候る無筆

ちりしふ百歳の候より人をめて妻の字を書き

おつせをいそめんとて免へて供の守りあはれを准也

きこぶ違者のこと自讃を石塔の表面より自樂塔と

あり右生國備前宝曆三酉年十二月三日死百十

四歳とあり觀音堂あり

一 要部屋敷と云ふありる場下の内ありたき地あり

は古き田のくれを井といふありしといふうたれを

いふとも所謂知まじし千坪もあるよし

一 紫雲山末迦寺 此寺内ふ古き唐申塚ありは古市

ヶ谷柳町は田うや唐原町七軒寺所へなる辻あり

しりし近頃あふ移りといふ

碑名石

武州湯原郡江戸牛込馬場下町

中 同行

奉待庚申為現當二窓地 ササリ連
ササリ名

左 二十四人

延宝四丙辰九月十日 川田久保

とあり今安永五年まで凡そ及百二年

一 淨國山清涼寺

浄土の 真言 筑前善導寺未

一 長久山妙泉寺

玉澤 落合の焼場、此間持寺

一 福壽山南昌寺

禪宗 宝禪寺未

一 法禪寺

宝の 金谷山といふ生古市ヶ谷に在り 此谷といふ所あり此田地

今尾陽之河原家の法禪 寺谷といふ所あり此田地

あり

一 中町 常泉寺

小溪未

一 起雲山 大龍寺

禪宗 奥國寺未

一 長久山 常立寺

手賀未

一 一心山專念寺

傳通院未

一 三十人町

二十人町

一 望園山長久寺

延命寺未

一 月海山法心寺

一 原町

廿若松町

破損町

一 戸山

是より大久保といふ新道

一 願満祖師

本松寺

一 感通寺

此辺にて玉極の古寺あり四方の垣以寺

の持あり古き石塔とも数多あり 麻手^判支天頼義寺

本宮といふ古木の松屋ふあり 椋の木二本 日比沙門

堂松平城 越後寺守殿 高田々といひ一法方より

寺跡といふ塚あり畠あり

一 松平越後寺守殿下屋敷 高田御殿といふ

一 淨泉寺 此所を淨泉と谷といふ

一 根来町 川田ヶ窪是より市谷柳町子ある

一 神明 長命寺法華勧請あり

一 根来山報恩寺

原本欠一

一 供養塚町 宗参寺領あり庚申塚あり同堂あり

一 掘古木あり生古の甲塚といふ碑あり細道あり又

一 狛田へ抜る道あり権現山といふ乃て権現を勧請

一 赤井岩覚支持あり丈より正法寺脇へ出る

一 雲居山宗参寺 禪宗 地領拾石

一 辨天社 宗参支持

一 七軒寺町 古七軒ある故名といふ九寺数子平院

一 多明院 空龍寺 淨輪寺 久成寺 佛生寺

西覃按たるふ山寺氏武士といふ七軒といふ

一 御鑓町 組屋敷

一 寺此外河平とありといへともいへらま書記し

畢ぬ知る人近考を希ふ

一 落合宿をらむ

一 落合御殿山 生古中山甚解由屋敷跡あり上落

合の部あり公儀あり河田山とある此山より出

一 定橋 柘木 一園あり(石陰園あり)

一 中井村 落合の字をいふ

一 瑠璃山系王院 下落合村
 一 落合村小尾古といふあり此所小前なる橋を
 比兵尾橋といふ
 一 下戸塚村 鳴子島といふる一は古此因の
 脇石地藏あり祀といふ鳴子の掘せしむるを
 り今此地を流村云国寺ありあり 土屋
 地藏といふはまき
 一 落合村及橋の邊の管名物あり 野干堂といふ
 狐火たよりといふ心歎四月の初めより 数多出る
 一 ことごとたん不の中小金田鶴巻たるといふ所
 あり

右高田空雀一冊不知何人所撰。得瀨名
 貞雄藏本而写畢。

高田空雀一卷原本不著撰人名氏近藤
 義休江戸志亦載引而歛姓氏顧於卷中
 所載為安永五年撰

南畝子

意樵耕吉

拾遺

一 高田馬場北の方松の並木 寶政七年 六十三四年前

齋藤仁右衛門の父植直其子孫眠 雜司右掾の

木下金子理平次直徳の誥あり

高田馬場のる 越後殿御女公は遊覽所の爲ふ

と来りしより 初は平原あり 南北の土手を築き

その後十四五年 經テ中土手出来し 其以前は

御院の方より 今のは立場の方へ脇へ斜なりし

馬場の東の角今柱木屋の所を番所跡といふ

一 馬場の茶屋をいふと 農家あり 中ふ 出

張茶屋をいふと 後より地へ移りて 並松の脇に

振り茶を沸したるが枝の末三本と枯水とりて
の代り少掬木二本を挿させしめしりて三場の
中程より枝末の枝をおろす所の山原茶子て
去らうして後枝をおろすを尤此茶をとり
あり（茶葉をいし）その後茶の才信濃屋出末（茶葉）より
又西の才 といふ茶を出来り

三嶋山 高知院のゆふの甘露なり 百姓理十郎
屋敷内陣地あり 柳は吉東海道三嶋山神の本
地あり 神木あり 中比猿蛇といへる蛇住りて
猿の尻の如くなる蛇あり 此蛇天上にたる時掬
木よりとりて失をとりといふ

一 菅山 前みち

一目高橋 一説水神の前の子守成西へ行く高田
三場の目よ箱田へおり石橋をいふとも亦いふ神
のよありてをこり神の前の一本橋をいふとも

一向景橋 承應年中關東用水の爲ふ是を掘る川
かてをせしありまより川の少橋を安貞の橋といふ
一 根川橋 といふ南藏院脇の今の右の橋されありその
際これの辻あり今益家町あり

一 麦原塚今の氷川の社の所あり
一 石葉茶をえり院より面影橋へ玉る左側の茶

尾をいふその隣を山所尾といふもと此所を尾守といふ

今つま 辨度が休所といふ所流あり

一南藏院のものと薬師堂を今金の葉院の向ふふ

あり青石の碑ももとの旧地より掘出せしあり尾陽

公の尾を中山の尾を有るももとの墓地こそなり

一今南藏院の北より村に入る所道の石橋を奥州橋といふ

一名を大野六兵衛を家後る中山と尾張殿を家後る

少一平もある所馬込ある一あり馬市を

あせし所あり目白も出れありてあるべし

一大岡兵庫改の下尾をゆるる奥州海道と通倉

湧きとてりまき道の松あり時より上の尾をみ大なる板の木

ありあれ杜松の名所くまより小舎何とると雑司各

高田ふる石川三方の堺の木も大なる板の木あり一年と

覧り入て代るる城のめられしとてあれいふ

一大家安孫討馬守を家境ありこの邊是角原

標柳桐林ありとあり

一高田百姓才兵衛といへるもの水戸黄門公の法安内をて

此邊を巡りて

一宿坂といふものと坂の南なり夫より右へより尾州の法

屋敷ぬふり塚ありる改観音堂あり義經の駒を

敷きし櫻あり夫より東柳下是解由といへるもの

住居とせし地あり此柳下氏鬼子母神の宛其基といふ

山本氏の塚にあり山本氏の工孫も多くと云ふなり
柳下氏と張氏二軒ありて田口氏の本姓あり

一 此嶽 日本四十二所の御嶽大明神あり王子権現といふ

来りて神体を能野より持来せし時就鳥の巢て来るといふ今子孫就鳥の羽三枚を紋とせ

一 雑司谷より音羽町一丁目へ出る道左右の方畑中を神

田窪といふ方木の森あり金重真稲荷の社あり額より

金山とあり志保原を清洲といふる額より
居水なる所といふ今をたし二十年前太刀を掘出せ

しるのあり今の名主は張平戸郎帯カと云迄頃三年

一 塚を掘出せり穴の上段と云しき所を臥せる屍ありその下より人の屍傳坐して居水るりともあり其ともいふ

なるもの又いふ

一 於鶴ヶ淵 雑司谷村清光出現所あり二三十年

前の子杉森の木の才あり古い内あり相あり鬼子母神

出現所あり今も陸地と云はれり出現所とい

十間飾りもありて厩ありし今も井口の如くありて

三角の外あり其を星跡といふ三角の井の淵あり

室殿ありその後ろふ七本松あり一株あり七本松あり
居水と云はれり星跡居水と

云ふいもと漢玉ありしもの才あり星跡あり戸の外と

つふ井伐いふいふいふを答る所あり女御ありといへるあり

山形雛形の七面大蛇神の像あり古れをむりしを淨ぢ
身延日脱上人紫衣冠成就の時七面の古像を

乞得てかへどりえめと親と神なりり本の二社七面此所

一せりく文字未洋今護持院の内地の所をいふ

一琵琶嶋 檢校島 蓮光院の後の方あり是

より先キ四町池ヶ谷あり今テ形のこあり

一楯碓焼場 玄国寺の南西の方あり今テ楯碓と焼とあり

一櫛不傳々切られし所 榎町宗相寺向サ新屋と焚火

床ありあるべしむらゝる毎坂といふ

酒井修理大夫屋敷物見の下の所あり 宝泉所昆砂

門山船あり集りてはくあり

一下高田村久具坂久具意在徳門より東山の才へ坊と道ふ

池あり鏡の池といふ 辨天の小社あり 百姓 といへるもの

裏あり寶政九年丁巳カ丹音鈴木氏宮川氏兄併まといふ

もまひて菘獵せしめきーめて又といふ 水増減

附記

一房州小湊清澄小

遠矢ヶ其臺 武者ヶ所といふ所あり

一曹司谷大行院位牌堂小小幡 甚兵衛尉日景憲の

木像あり 甚兵衛尉自分眉毛を挿られし像あり

法体あり道服を著し右の手小拂子を持つり 又松山の

藏盛政の木像ありて法持あり又小幡甚兵衛尉村上庄次郎松八藏川合の位牌ありて表あり

慶安二己丑年

妙法 性智院道授日悟居士 俗名村上庄次郎

六月二十七日

寛文三癸卯年

妙法 信曹院殿無角道牛居士 俗名小幡

二月二十五日

寛文五年辛丑年

妙法 法受院蓮心日随正居士 俗名松八藏

五月三日

小幡甚兵衛尉木像尉子小幡付ころ文左の如し

小幡甚兵衛景憲寛文三癸卯年二月廿九日卒釋氏改号信曹院無角道牛居士其木像在曹司谷大行院憲為曾祖父小幡孫次郎在道後号日大兵衛親為其兄景憲者甲陽兵學中與之祖普世所知也憲為雖少戈恭得継其道統傳兵經仕藝州大守少將君被称師範世門弟子不知其数因制衣一小室以致薙髮系之敬尚身焉

其猶子小幡孫次右衛門憲行其子小幡甚左衛門景豊其嫡小幡孫次右衛門憲為

元文五庚申二月廿五日

大行院歷代

開基	東陽坊	日進	大德
先師	大行院	日信	覺德
<small>當坊五世 別當初世</small>	日性	日性	大德
<small>二世</small>	<small>文明大酉 年二月廿五日</small>	日了	
<small>當坊三代</small>	日光	日光	大德
四世	經光院	日陽	
五世			

六世	經光院	日德
<small>當坊七世</small>	本行院	日鮮
八世		
<small>當坊九世</small>	教覺院	日行
<small>當坊十世</small>	常攝院	日津
十一世	養光院	日歷
十二世	攝蓮院	日英上人
十三世	竟壽院	日詠
十四世		
十五世	尚牛院	日至
十六世		

十七世 三義院 日余

杉山日鑑居士木像扉銘

杉山氏世以兵學仕講習武事家聲相襲
連綿至今憲章謂予曰先人八藏盛政者高
橋氏之支族九州名家來中國仕小早川氏

數年後聞小幡景憲善通兵術為當世之巨匠與
兒王庄次郎政定來共東從景憲叩聞其道遂
以信服執弟子之禮日景憲示愛之情如父子乃改二
人姓兒玉稱村上高橋稱杉山然其所以改之由來
莫有傳矣浪華之後二人在焉諸候聞之厚聘以
召固辭不應游宴食息不離日景憲側以至卒
其外近世稱師名弟子者不聞親厚如此政定死無
子 盛政獨得傳其學老薙髮者子
屠衣改名日鑑適當像一軀安置雜司谷大行院
中其像暴露已久為煤縮化憲章懼與父憲
之共新製外櫃以藏遺貌蓋盛政美事極多

二百年絕無能傳之今唯拾遺事之概略而以識其擅靡尔

文化七年春三月 同幡廣瀨曲記

文化七年庚午五月

軍家五世孫

白河幡臣

松山八藏憲章附之

寶文元年辛丑年

法受院蓮心日鑑居士

五月三日

俗名松山八藏盛政

行年七十八卒

右同金子理平次直德遊僧司谷記金子氏所語以為拾遺

南畝子

天保五辰晚縁令ふと集り字の書

弘化元甲辰年八月朔日

越智直澄

嘉永二^{巳酉}年閏四月二十日

高麗環

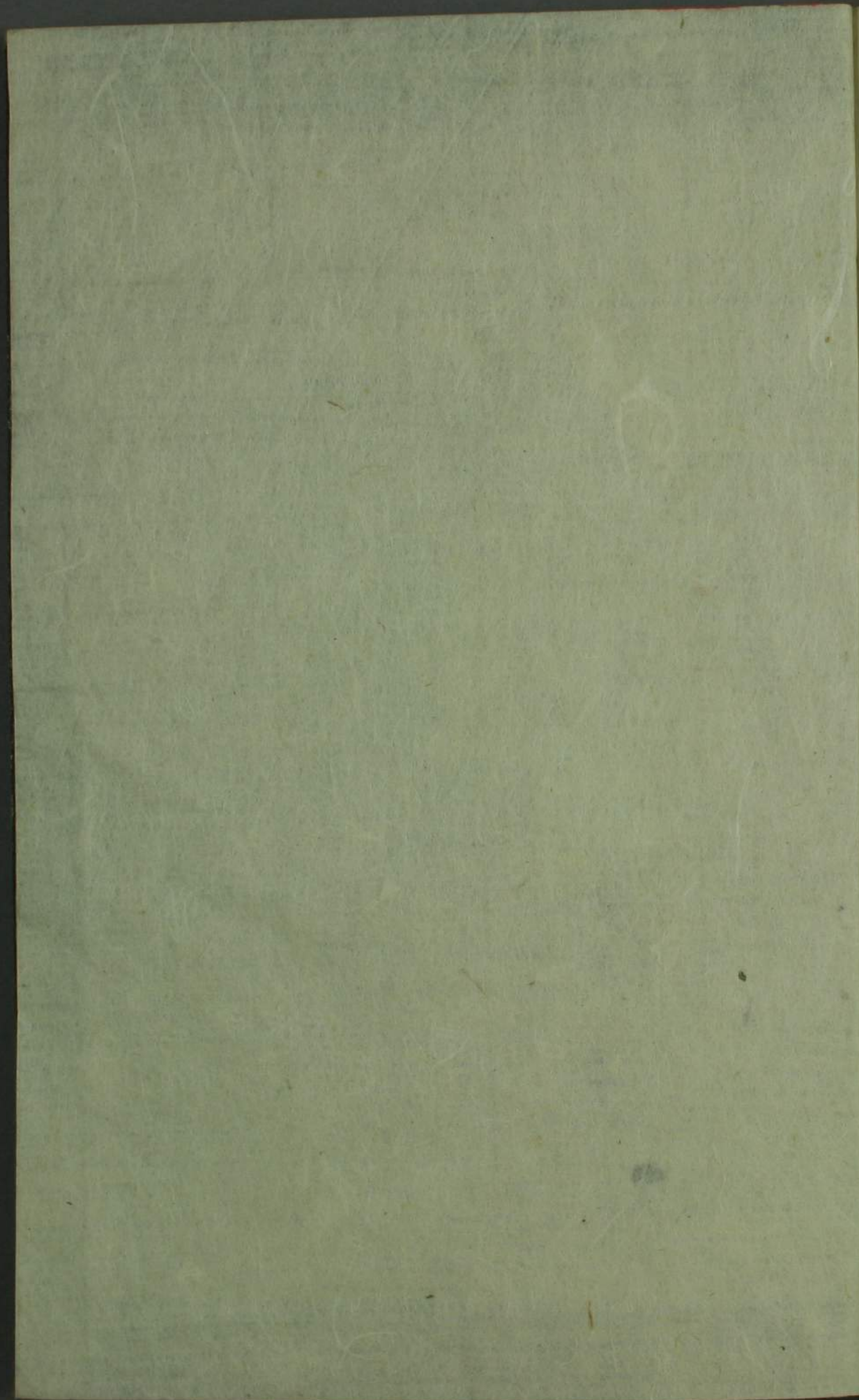
下

明治十九年一月十二日冬至の十日高麗氏
所託の字を成し得る騰字を原本傳写の
誤り少く愚考のおつふ所を訂正し作りぬ

高田峯井 木又牛尾

[Faint handwritten text in vertical columns, possibly bleed-through or light ink]

[Blank lined area on the left page]



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

正
日
正
藏

